

図5 主要葉上動物数の季節的变化

端脚目は周年にわたり大きさの変動が小さい。

4. 魚類調査

(1) 柵網漁獲試験

1984年6月11日から16日まで例年と同様に定点(図1)において柵網漁獲試験を実施した。

結果は表4に示すとおりである。取り上げは6月12日から16日の5日間おこない合計25種類、74個体、約22.6 kgの漁獲があった。これは前年度に比べて種類と数で約1/2、重量で1/3の漁獲量であった。過去5年間の比較を表5に示す。1982年度まではアイゴ類の大量漁獲がみられたが、1983、84年度は著しく減少し、このことが全体的な漁獲量の落ち込みの大きな原

結果は表3、図4、5、および6に示すとおりである。個体数と重量の全体的な傾向は6月頃にピークがみられ8、9月の夏季には減少し、その後再び増加する傾向が認められる。なお、10月の出現重量が多いのは大型の短尾類が混入したためである。各月の種類別の比較では個体数、重量とも遊在目、端脚目、および長尾類が多く、遊在目は6月と11月に出現数のピークがみられる。また、端脚目では6、12と2月にピークがみられ、10月以降は増加する傾向にある。長尾類では6月と10月にピークがみられ、11月以降は減少している。なお、主要葉上動物の個体の大きさを比較すると、遊在目は平均重量約1.0、端脚目は0.3および長尾類は4.9 mg/bodyで、

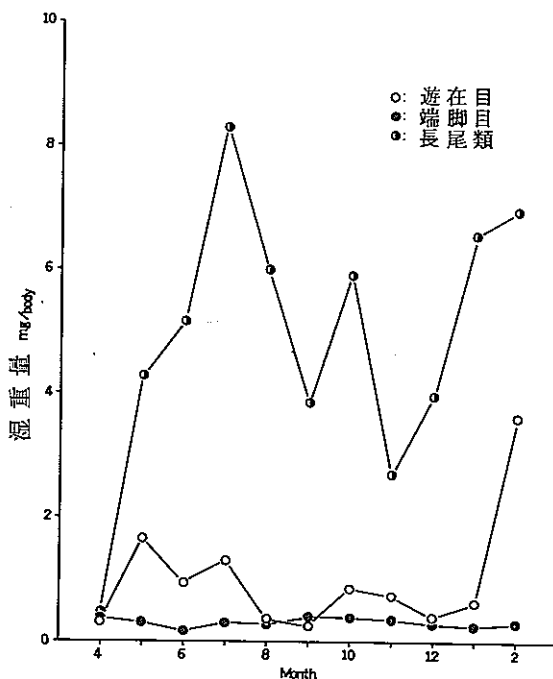


図6 主要葉上動物の大きさの季節的变化

表4 柵網漁獲試験

1984

月 日	6. 12		13		14		15		16	
	BW	Na FL	BW	Na FL	BW	Na FL	BW	Na FL	BW	Na FL
ヤマトミズン					2 62	16.8				
ホシサヨリ			1 190	27.5						
オキザヨリ									2 950	86.3
オニカマス	1,050	1 56.0	2,500	1 79.0						
オオメカマス	157	7 31.1								
セグロマツカサ									2 63	11.8
モンツキアカヒメジ			3 168	22.5	2 87	18.0	1 65	17.5	7 144	20.4
ヨメヒメジ									2 184	23.3
コバンヒメジ							1 294	25.5		
クロサギ	40	1 12.5								
ノコギリダイ	65	2 14.8	7 59	14.5	1 42	13.0	1 64	14.5		
コガネアジ			2 158	20.0						
ヒブダイ							1 270	24.5		
モンツキハギ									1 120	17.0
クロハギ	90	1 15.5	80	1 15.5						
ゴマアイゴ	944	5 35.6			1 326	24.5				
アイゴ	260	1 27.0								
ヒメアイゴ	113	3 17.3								
マジリアイゴ	145	1 19.5								
ヒフキアイゴ										
ムラサメモンガラ	110	1 16.0			1 100	16.0	1 130	17.5	2 58	14.5
コクテンフグ									1 190	19.5
ネズミフグ									1 380	33.5
ワニゴチ									1 1,100	34.0
アオリイカ							1 2,300	61.5		
							2 1,240	29.5	2 110	13.0
合 計	7,985		4,005		766		4,363		5,530	

No. : 個体数, BW : 平均体重(g), FL : 平均尾叉長(cm)